

目次

	目次	1
理工学部	機械工学科	三林 雅彦 材料強度学研究室 4
		十朱 寧 環境エネルギー変換システム研究室 5
		感本 広文 機械力学研究室 6
		後藤 昭弘 先端加工研究室 7
		野崎 孝志 ヴィークル工学研究室 8
		吉見 直人 材料表面工学研究室 9
		飛田 和輝 知能メカトロニクス研究室 10
		牧野 育代 流体科学研究室 11
		黒瀬 隆 構造力学研究室 12
		佐藤 彰 エア・モビリティ研究室 13
		野内 忠則 次世代エンジン研究室 14
		鹿内 佳人 ロボット工学研究室 15
		鈴木 弘人 無人機航空システム工学研究室 16
	電気電子工学科	美馬 一博 生活支援スマートシステム研究室 18
		小澤 哲夫 化合物半導体研究室 19
		土肥 稔 蓄電装置研究室 20
		石田 隆弘 高電圧工学研究室 21
		村上 裕二 センサ工学研究室 22
		服部 知美 システムコントロール研究室 23
		本井 幸介 生体情報計測研究室 24
		本良 瑞樹 ワイヤレス情報通信研究室 25
		中田 篤史 電力変換装置研究室 26
		武岡 成人 音響研究室 27
		青山 真大 電動機器システム研究室 28
		Mars Kamel イメージング集積回路・システム研究室 29
	物質生命科学科	齋藤 明広 応用微生物学研究室 31
		桐原 正之 有機化学・医薬品化学研究室 32
		笠谷 祐史 X線構造物性研究室 33
		山崎 誠志 界面物理化学研究室 34
		宮地 竜郎 食品安全学研究室 35
		南齋 勉 非平衡界面化学研究室 36
		吉川 尚子 食品機能化学研究室 37
		小土橋 陽平 機能性高分子研究室 38
		高部 稚子 ストレス反応制御研究室 39
		鎌田 昂 天然物化学研究室 40
		佃 諭志 ナノ材料研究室 41
		脇川 祐介 分子物理化学研究室 42
	建築学科	崔 琥 防災構造工学研究室 44
		脇坂 圭一 建築計画・デザイン研究室 45
		渡辺 英義 耐震構造研究室 46
		長尾 亜子 建築意匠研究室 47
		石川 春乃 建築環境(温熱)研究室 48
		田井 幹夫 設計・意匠(デザイン)研究室 49
		鍋島 佑基 建築環境(設備)研究室 50
		林 英昭 建築史研究室 51
		E RIDENGAOQIER 建築材料・生産研究室 52

理工学部	土木工学科	中澤 博志	地盤防災工学研究室	54
		松本 健作	水理研究室	55
		西田 孝弘	社会インフラ材料科学研究室	56
		富永 知徳	構造デザイン研究室	57
		Mahapatra Kedarnath		
			地球環境・リモートセンシング研究室	58
		松本 美紀	建設・防災マネジメント研究室	59
		居波 智也	海岸工学・再生可能エネルギー研究室	60
		鈴木 一史	モビリティデザイン研究室	61
		芦澤 恵太	応用・計算調和解析研究室	63
情報学部	コンピュータシステム学科	國持 良行	計算機科学研究室	64
		足立 智子	応用数理・暗号理論研究室	65
		渡邊 志	感性情報処理研究室	66
		富樫 敦	データサイエンス・人工知能研究室	67
		大石 和臣	情報・物理セキュリティ研究室	68
		高野 敏明	適応システム研究室	69
		山岸 祐己	サービス情報学研究室	70
		四宮 友貴	画像認識アルゴリズム研究室	71
		河野 郁也	並列アクセラレーション研究室	72
		范 自然	応用デザイン研究室	73
	情報デザイン学科	田村 和広	ゲーム・強化学習研究室	74
		小栗 勝也	マスコミ研究室	76
		富田 寿人	スポーツ科学研究室	77
		大相 弘順	遺伝情報／人工生命研究室	78
		友次 克子	言語学研究室	79
		林 章浩	マネジメント・メソッド研究室	80
		谷口 ジョイ	社会言語学研究室	81
		本多 明生	心理学研究室	82
		兼子 一	社会学・社会調査研究室	83
		松田 崇	コミュニケーションデザイン研究室	84
		伊藤 明倫	先端アート研究室	85
		渡邊 言也	感情神経科学研究室	86
		白田 泰如	会話コミュニケーション研究室	87
		津田 裕之	環境認知科学研究室	88
		Adam Brian Jenkins		90
		高橋 桂子	地球環境インフォマティクス研究室	92
		峯田 克彦	環境ゲノミクス研究室	93
		喜多 隆介	超伝導工学研究室	94
教育開発センター	大学院 理工学研究科 システム工学専攻	産学交流		96
		産学コラボネット		97
		研究会		98
		ふくろい産業イノベーションセンター		100
		藤枝イノベーション・コモンズ		101
		取材対応窓口		102
		ホームページ一覧		103



教育開発センター



講師

Adam Brian Jenkins

アダム・ブライアン・ジェンキンス

- 学歴 西シドニー大学 言語学部 卒業(2003)
西シドニー大学大学院 Graduate Diploma in Adult TESOL 卒業(2004)
マッコーリー大学 Postgraduate Diploma in Applied Linguistics(TESOL) 卒業(2006)
マッコーリー大学 Master of Applied Linguistics(TESOL) 卒業(2013)
- 学位 修士(言語学)(マッコーリー大学)
- 略歴 有限会社イー・シー・エル・エイ 入社(2004~2011)
静岡理科大学 教育開発センター 特命講師(2011~2018)
静岡理科大学 教育開発センター 講師(2018~)
- 学会 日本ムードル協会／全国語学教育学会／日本教育工学会
- 専門 eラーニングシステム(Moodle)／教育設計・工学／応用言語学／英語教育法
- 研究 eラーニング環境設計／反転授業／IT利活用の教授法
- URL <https://researchmap.jp/adam.jenkins>



研究概要

全学で統一のeラーニング環境設計による教育改善

教育は色々なICT活用方法により改善が可能である。例えば、反転授業や予習によって知識を修得させ、教室内でその知識を応用させることでアクティブラーニングの機会を増やすことができる。授業後、eラーニングシステムによって教材を再閲覧できるので、効果的に復習もできる。しかし、ICTの活用が苦手な教員もいる。また、各教員が自らICT活用を始めても、個別のシステムが複数存在するのは不便だ。この様な状況では、学生にとって利用が不便である上、学校が教員に対してICT活用のサポートを十分にすることができない。一方、全ての学生や教員のために統一したシステムがあれば、学生が容易に利用できるようになり、また、教員が効果的に活用することを可能にする組織的なサポートが受けられる。私の研究には主に以下の目的がある。皆が使い易いシステムを作ること、全ての学生に利用させること、多くの教員に活用してもらうこと、そして、それによって学生の主体的学習や能動的学習を促進し、全科目で教育を改善することだ。静岡理科大学ではiLearnと言うeラーニングシステムを、Moodleをベースにして導入した。最初は英語の授業だけで利用していたが、その後、多くの科目にiLearn利用が広まった。

iLearn  SIST				
レベル	Static	Dynamic	Communicative	Explorative
内容	学生にコンテンツを表示する。学生は閲覧するのみ。	学生がシステムを操作することで、各自結果別のフィードバックがある。	学生がシステムを通して、他者とコミュニケーションする。	学生が各自でコンテンツを探索し、システム上で検索と共有を行う。
Moodleモジュール例	リソース、ラベル、ページ、ブック、ファイル、URL	活動、課題、試験、小テスト、レッスン、提出物、HSP	活動、フォーラム、チャット、データベース	活動、フォーラム、チャット、データベース、ワークショップ
展望	テクノロジー	テクノロジー活用	テクノロジー活用 + 社会性	テクノロジー活用 + 探究性・クリエイティビティ
難しさ				

連携可能内容

eラーニングシステムの計画・導入・管理などに関すること、Moodle LMSのプラグインやMoodleと他のシステムを繋ぐことについて連携が可能。



大 学 院



教授
高橋 桂子
KEIKO Takahashi

- 学歴 津田塾大学 学芸学部 卒業(1985)
東京工業大学大学院 総合理工学研究科 博士後期課程 修了(1991)
- 学位 工学博士(東京工業大学)
- 略歴 花王株式会社 入社(1991)
英国ケンブリッジ大学(1993)
東京工業大学大学院 総合理工学研究科(1994)
国立研究開発法人海洋研究開発機構(1998)
早稲田大学 ナノ・ライフ創新研究機構 上席研究員・研究院教授(2021～)
静岡理科大学大学院 理工学研究科 教授(2024～)
- 学会 計測自動制御学会、可視化情報学会、日本流体力学会、日本応用数理学会、日本地球惑星科学連合、
科学社会学会
- 専門 地球環境工学／地球環境流体学／大規模並列計算科学
- 研究 海洋・大気の超大規模シミュレーションと予測・適応研究/超並列・高速計算法の技術開発／
超大規模データ処理技術の開発
- URL https://researchmap.jp/Parma-12_Link



研究概要

地球環境と人の持続可能な循環の構築

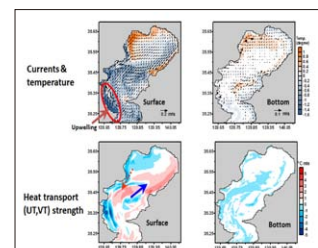
地球環境をシステムとして捉え、構成要素である大気、海洋、陸面、地下圏が互いに影響を及ぼす相互メカニズムを明らかにすることが研究の大目標です。マルチスケール・マルチフィジックスの視点を活かした超大規模シミュレーションによる地球スケールから都市スケールの過去の再現と将来予測の巨大データから、人と地球環境の持続可能な循環関係を実現するための有効策を見出す研究を推進しています。最近では、リアリスティックなシミュレーションを駆使して得られる巨大データを都市域の新たな環境価値の探索と評価や、駿河湾の漁場予測や資源管理のための機械学習による新たな手法開発にも取り組んでいます。



地球環境システムの概要



都市の熱環境 超高解像度シミュレーション



東京湾 超高解像度シミュレーション

- 連携可能内容
- 駿河湾の海洋資源において、漁場予測や将来の資源管理を可能とする予測技術および予測システム構築技術
 - 駿河湾やその周辺港湾域における自然エネルギー開発やその利用において、計画的かつ高効率な利用促進を推進を可能とする詳細な気象および海象の予測技術
 - 建物、公園、水辺、緑化などの地域や街区の環境変化を伴う施策や計画において、それらや影響や効果を実施前に詳細に評価可能な高精度のシミュレーション技術
 - 異なる種類の流体の混合において、均一性や分離過程などの特性同定と物性評価を可能とするシミュレーション技術



教授
峯田 克彦
MINETA Katsuhiko

- 学歴 東京大学 農学部 農芸化学科 卒業(1997)
東京大学大学院 農学生命科学研究科 応用生命化学専攻 修士課程 修了(1999)
総合研究大学院大学 生命科学研究科 遺伝学専攻 博士課程 修了(2002)
- 学位 博士(理学)(総合研究大学院大学)
- 略歴 科学技術振興事業団 博士研究員(2002～2003)
シカゴ大学生態進化学部 リサーチアソシエイト(2003～2004)
北海道大学大学院 情報科学研究科 助教授・准教授(2004～2014)
アブドラ国王科学技術大学 上席研究員・主幹研究員(2014～2022)
国立国際医療研究センター研究所 客員研究員(2015～2025)
早稲田大学ナノ・ライフ創新研究機構 上級研究員/研究院教授(2022～)
マリンオープンイノベーション機構 副研究所長(2022～)
産業技術総合研究所 客員研究員(2022～2025)
静岡理工科大学大学院 理工学研究科 教授(2024～)
- 学会 日本遺伝学会、日本進化学会、日本分子生物学会、日本生物工学会、マリンバイオテクノロジー学会、
Society for Molecular Biology and Evolution
- 専門 ゲノム科学／進化遺伝学／バイオインフォマティクス／海洋科学／マリンインフォマティクス
- 研究 環境ゲノミクスによる駿河湾の水産資源の見える化／ゲノム科学に基づく生物の進化多様性
- URL https://researchmap.jp/katsu_mineta



研究概要

海洋DX・環境ゲノミクスで読み解く海洋の生物多様性とその応用

地球上の環境には多くの生物が存在しています。ゲノムを用いた解析技術により、現在、目に見えない微生物等を含め、環境中の様々な生物の存在や痕跡を調べることができるようになってきました。このような環境ゲノム情報はその生物や生育環境のことを詳しく調べることができるだけでなく、大規模なデータ解析により生物多様性の解明に、またバイオテクノロジーやインフォマティクスと組み合わせることで環境問題の解決や人類の生活向上に役立つことが期待できます。

海洋を中心に、様々な環境における環境ゲノム情報を大規模に収集し、大型計算機により解析、活用することで、新たな学問領域であるマリンインフォマティクスの確立を目指すとともに、生物多様性の維持や獲得に関わる進化遺伝学的な背景、新規機能遺伝子や遺伝資源の探索、水産資源の調査や、これらからの産業応用を目指した研究を行っています。

連携可能内容

環境調査、生態調査、生物多様性解析、ゲノム解析、大規模生命情報解析



特任教授
喜多 隆介
KITA Ryusuke

学歴 京都大学 工学部 金属系学科 卒業(1982)
京都大学大学院 工学研究科 修士課程 金属加工学専攻修了(1984)

学位 博士(理学)(広島大学)

略歴 シャープ株式会社 中央研究所 入社(1984)
財団法人国際超伝導産業技術研究センター 超伝導工学研究所 主任研究員 出向(1989)
シャープ株式会社 機能デバイス研究所 帰任(1993)
静岡大学 工学部 電気電子工学科 助教授(1998)
静岡大学 工学部 電気電子工学科 教授(2004～2023)
静岡理工科大学 理工学部 非常勤講師(2017)
学校法人静岡理工科大学 御幸町キャンパス推進本部 キャンパス推進準備室(2023)
学校法人静岡理工科大学 法人本部 地域協働センター プロデューサー(2024)
静岡理工科大学大学院 理工学研究科 特任教授(2024～)

学会 応用物理学会

専門 酸化物電子材料／超伝導工学／薄膜工学／結晶成長／金属材料

研究 高効率電力輸送用超伝導体材料の実用化技術

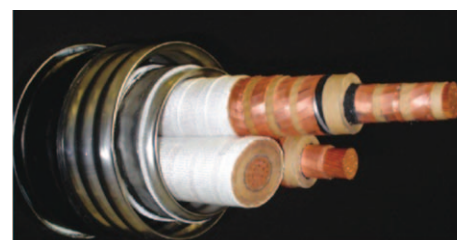
URL <https://researchmap.jp/read0055958>



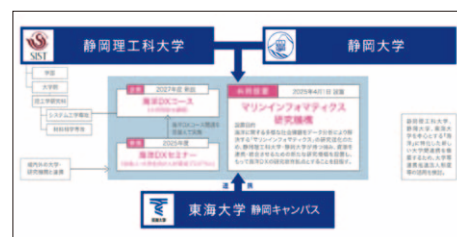
研究概要

高効率エネルギー社会を目指した酸化物超伝導体材料に関する研究

酸化物高温超伝導体は液体窒素の沸点以上の超伝導転移温度を有し、直流での電気抵抗がゼロとなるため様々な産業分野への応用が可能です。例えば、電力ケーブルへ適用することにより電力輸送ロスを極めて低くでき、超高効率の電力輸送が可能となります。また高温超伝導体線材を使った超伝導コイルは極めて高い磁場をコンパクトな空間で実現できるため、高効率・高トルクモーターやコンパクトな強磁場発生装置の実現が可能です。また、超伝導研究以外には、現在静岡市・静岡県と県内の3大学で進めている「駿河湾・海洋DX先端拠点化計画」にも携わっていますので、海洋産業のDX化や次世代海洋産業についてご興味があれば連携して事業を進めていくことが可能です。



高温超伝導ケーブル



駿河湾海洋 DX プロジェクト

連携可能内容

下記についてご相談・ご提案が可能ですのでお気軽にご連絡ください。

- エネルギーの超高効率利用を目指した高温超伝導技術の応用
- 酸化物材料や磁性体材料の作製と電気電子機器への応用技術
- 酸化物材料や金属材料の結晶成長技術
- 電気電子材料やセラミックスの薄膜化及び低コスト作製プロセス
- 海洋産業のDX化や次世代海洋産業関連技術とその社会実装